

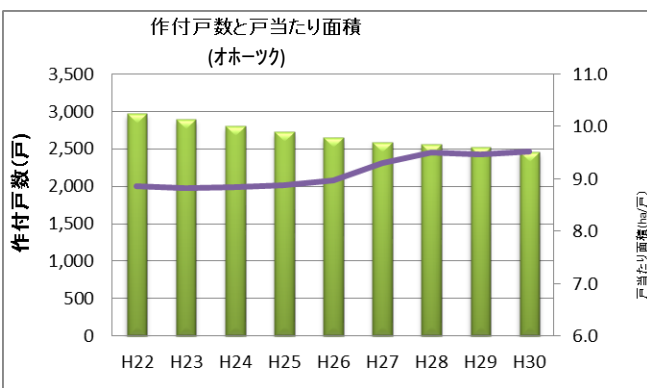
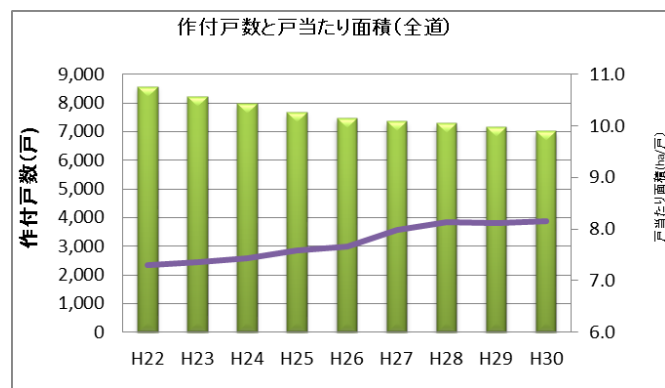
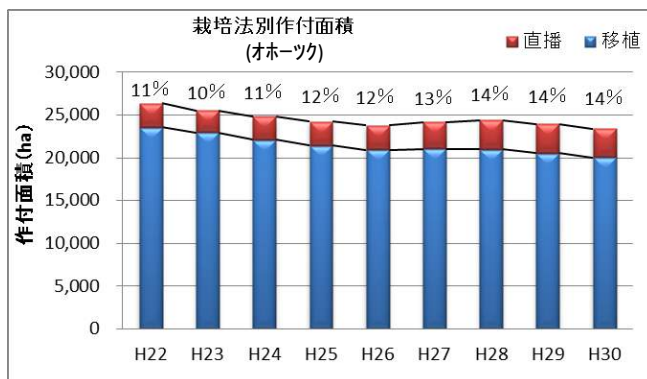
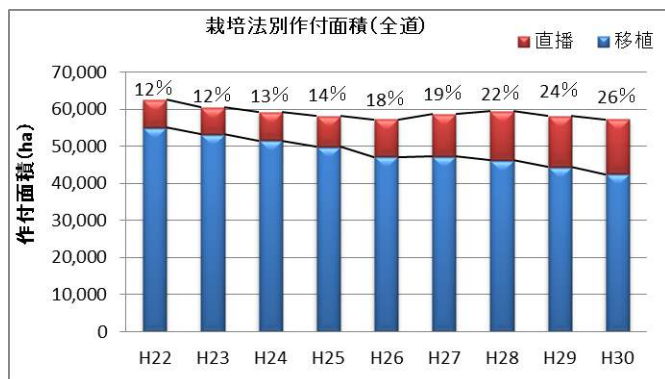
今号のテーマ:『てん菜について』

ホクレン中斜里製糖工場

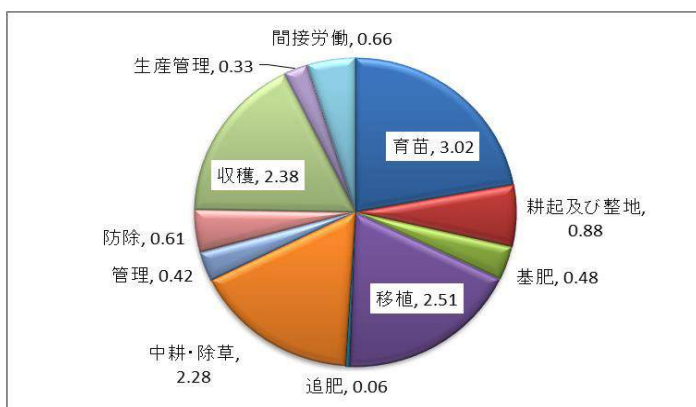
1. 作付面積・戸数の推移について

全道でのん菜作付面積は年々減少を続けており、平成30年度は平成22年対比で約91% (△5,350ha) となっています。栽培法別でみると直播栽培の面積・比率は増加し、移植栽培は減少しています。背景としては、高齢化・後継者不足による戸数の減少と規模拡大、それに伴う労働力の不足が挙げられます。

オホーツク管内においても減少傾向であり、平成30年度は平成22年対比で約89% (△2,933ha) となっています。当管内は全道と比較すると移植栽培の割合が高く、戸当たり面積が大きいことが特徴として挙げられます。



2. 作業別労働時間(移植)



てん菜の移植栽培においては、春に行う育苗作業(ポット作成含む)と移植作業、また収穫作業が全体の6割近くを占めており、作業の中でも特に労働力の不足が課題となっております。

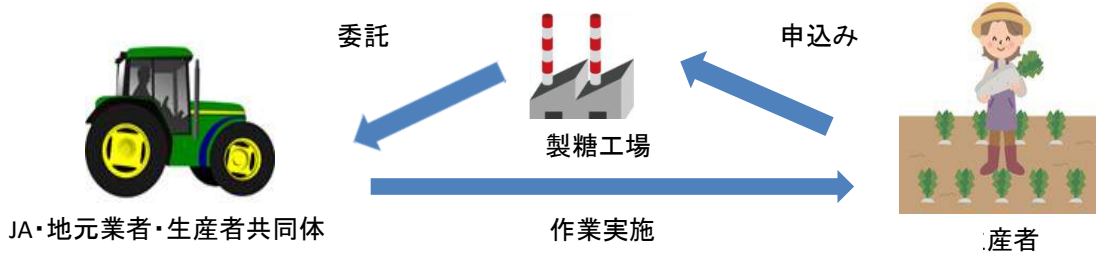
※てん菜糖業年鑑データ(2016)より

※単位はhr./10a

3. ホクレン中斜里製糖工場における各種取組について

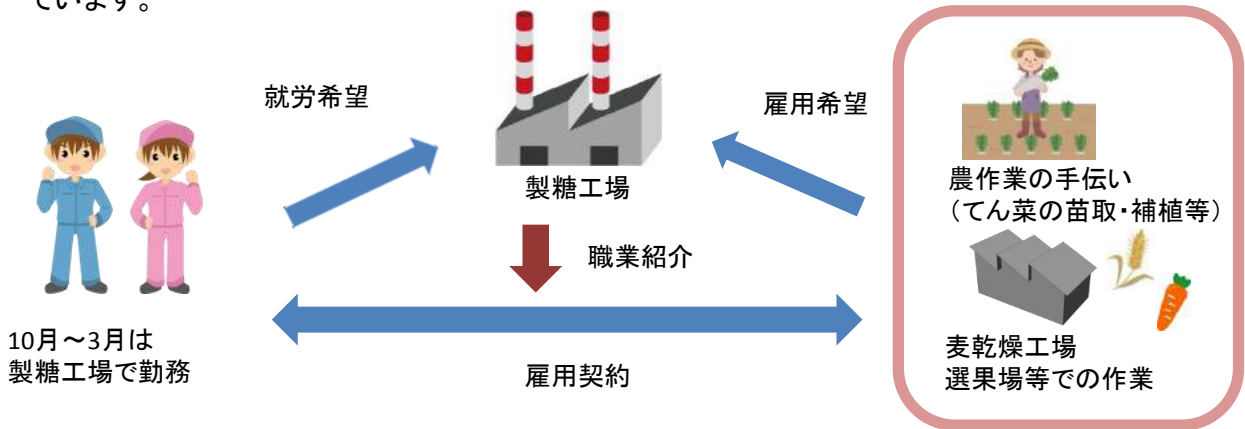
(1) 作業支援

てん菜の移植作業・収穫作業について、コントラクター組織による作業支援を行っております。実施主体はJA・民間業者・地区の生産者共同体等様々な形態があります。今後は現在の課題を整理して地域に拡充していく事を目標としています。



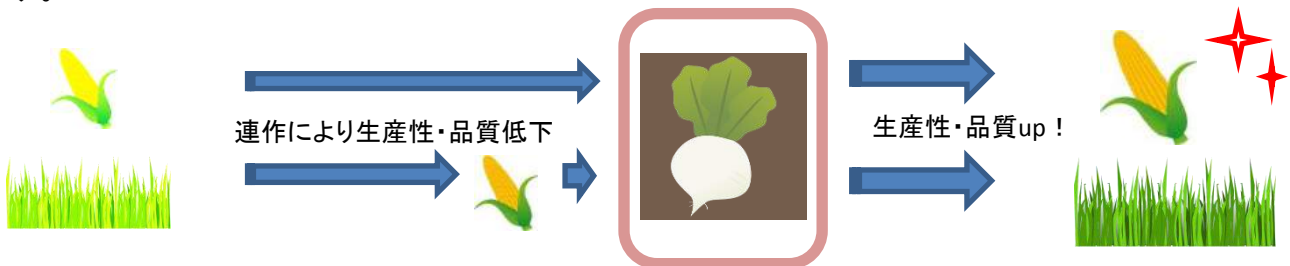
(2) 人材支援

作業員不足解消に向け、無料職業紹介を行っています。製糖工場操業期に雇用する季節従業員を対象に操業終了後の就労希望を募り、生産現場で雇用を希望する生産者・JA施設などに対し紹介を行っています。



(3) 耕畜連携

飼料作物(牧草・デントコーン)の更新時にてん菜を作付けすることにより、生産性・品質の向上を図る取り組みを試行的に実施しています。てん菜作付けに伴う作業委託料は、てん菜の原料代金で補っています。



植付～収穫まで外部に作業を委託している。
(地区の生産者共同体など)

北見地区施肥防除協議会試験結果 ～てん菜褐斑病～

テンサイ褐斑病のDMI耐性菌・カスガマイシン耐性菌について

DMI剤耐性菌発生（平成29.11.6 特殊報）

- 平成13年にDMI剤に対する褐斑病の感受性低下菌の発生が報告され、平成29年に特殊報でDMI剤耐性菌の発生が発表されました。

カスガマイシン剤耐性菌発生

- 当該耐性菌は昭和60年に初めて報告されましたが、弱耐性菌でした。
- 今回、DMI剤で全道各地で採取した菌株についてカスガマイシンに対する感受性検定を行った結果、強耐性菌主体の菌群が全道的に分布していることが確認されました。

➤ DMI剤(混合剤含む)ならびにカスガマイシン剤(混合剤含む)の使用回数を可能な限り低減し、マンゼブ剤および銅剤を基幹薬剤とした防除の実施を推奨しています。

北見地区施肥防協試験では、てん菜褐斑病に対する薬剤試験を今年度実施しておりますので、ご報告いたします。

★平成30年課題 てん菜褐斑病に対する新規殺菌剤試験(JAきたみらい)★

ダコニールエース (TPN: 53.0%)

規格は1ℓのみでしたが、
4ℓの大型規格も登場しました！

作物名	適用病害	希釈倍率	使用水量 (ℓ/10a)	使用時期	使用回数		使用方法
					本剤	TPN	
てん菜	褐斑病	750 ～ 1,000	100 ～ 300	30日前 まで	3	3	散布

防除体系は7/18から
14日間隔で同じ薬剤を
計4回連続散布

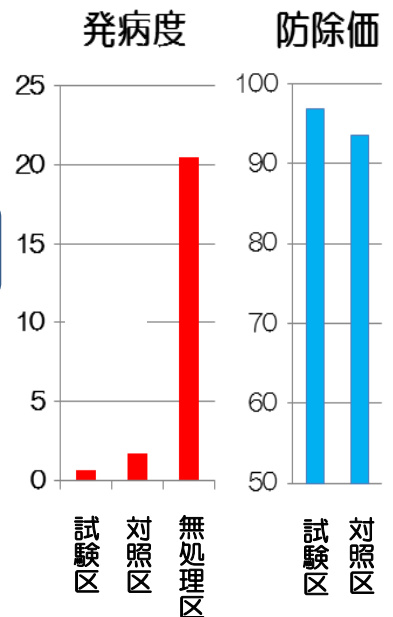
対照区 マンゼブ (500倍)

試験区 ダコニールエース (750倍)

※ JA保有試験圃場での薬剤効果確認試験のため、実際にお使いいただける使用回数とは異なります。

本試験は褐斑病が無処理区で発病度は20.5と少発生でありましたが、試験薬剤は対照薬剤と同等の防除効果が観察されました。

現状DMI剤およびカスガマイシン剤の耐性菌発生が懸念されるため、**ローテーション防除の選択肢**としての普及性はあると考えられます。



【トピックスコーナー1】

●繁殖技術研修会を実施しました 《ホクレン訓子府実証農場 畜産技術課》

10月30日にオホーツク家畜人工授精師協会の主催による繁殖技術講習会を当農場にて開催いたしました。講師はジェネティクス北海道高橋芳幸顧問をお招きし、「生体を用いた直腸検査と超音波検査」と「生殖器解剖と直腸検査



直腸検査の様子

・受精技術の確認」の実習を行い、「牛の人工授精に関する繁殖整理と基礎技術」について講義を行いました。当日はオホーツクNOSAI等からの参加者が受講され、通常業務での疑問点など多くの質問がありました。今後も継続して研修を開催していきたいと考えています。

【トピックスコーナー2】

●オホーツク・スマート農業セミナー2019(畑作)を開催します

《オホーツク・スマート農業推進会議》

本セミナーでは、急速に導入が進んでいる「GNSSガイダンス及び自動操舵システム」・「各種生育センサ」の現状と活用方法について、実際の導入農家の声や比較試験の結果とともに紹介します。また、アシストスーツ等の展示ブースも設置します。

【開催日時】 1月17日(木) 13:30~16:30

【受講場所】 北見市民会館

【申込・問合せ】 オホーツク総合振興局農務課
(0152-41-0780)



★内容に関するお問い合わせやご意見・ご感想につきましては、ホクレン北見支所 営農支援室(担当:林田)まで、メールにてお願いいたします。(アドレス:11einousien@hokuren.jp)

～次号予告～

次号(平成30年度第11号)のテーマは『スマート農業(酪畜)』です。乞うご期待下さい! ④